

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスあいらっこハウス			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 15日		～	令和 7年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 15日		～	令和 7年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 21日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童本人が興味関心あることの把握し、希望している内容を日々の活動に取り入れている。個々の特性に合わせたSSTプログラム(個別・集団)を考え、取り組んでいる	興味関心をさらに広げられるよう事業所内の活動だけでなく外出活動を積極的に行い、体験できる場を提供している。また、児童たち自ら外出先や実施したいことの計画を立て、実施する活動も行っている。子どもたち同士の関わりを増やし、コミュニケーションを練習も兼ねて、対戦型の集団活動に加え協力型の集団活動も行っている	プログラムの立案が一部の利用者様や職員に偏っているため、全員が意見やアイデアを出しやすくなるよう、話し合いの機会をより増やしていく。学習へ向き合う姿勢やSSTで将来の為の目標をもって活動する場所であることを周知し、学校生活を送る為の補助的な場所と理解してもらうことも必要と考えています。
2	分かりやすい視覚支援の実施	日々のスケジュールや時間を視覚化し、一人で確認して次の行動にうつることができるよう工夫している。おもちゃをしまう箱に、入っている中身の写真を貼り、一人でも写真のように片付けを行えるようにしている。皆が見える場所に「声ののさし」「お友達や支援者との距離感」の視覚支援を貼り、いつでも確認ができるようにしている	現在用意している視覚支援でも理解が難しい利用者に向けて、感覚支援も取り入れて、より分かりやすい視覚支援の作成を進めていきたい。
3	各関係機関と連携し、包括的な支援を実施しています。学校や関係機関での問題に対しては課題の整理を行い、対話を主とした包括的な取り組みを実施しています。	お子様の状況に合わせて、学校や病院機関と連携しています。学校とは、対面での話しができるように時間を設けて情報共有をしています。必要があれば、事業所に向いていただき様子を見ていただいたり相談支援をさせていただいております。お子様によっては、保護者様と学校の担任教員や支援員と連携ノートを作成し文章でのやり取りも実施しています。病院機関では、担当医師と保護者様を通じて情報の交換をしております。	病院や学校によっては連携が難しい場合があるため、どのように介入していけば互いのメリットになるか模索しています。学校への見学に行かせていただいたり、保護者様を通じての情報共有など手立てを変えて対応していきます。病院、所属学校と保護者のパイプ役となり、利用者様が安心して過ごしやすい環境づくりを目指す。病院、所属学校の先生と連携が取りやすいよう信頼作りを行ってまいります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	フロアの広さやバリアフリー面など環境的に課題があります。集団での活動のしづらさがありますが、物品の配置をかえたり人数的な配慮をさせていただいております。段差の昇降などは、スタッフが付き添いリスクマネジメントを行いながら移動支援の対応をしております。	限られた広さのなかには療育物品があり、影響していると考えています。逆に限られた中で環境を有効に利用することで、お子様のニーズに沿った支援ができていくことも多くあります。多くのニーズがある中で、それらに応えられるような多様な支援のあり方も模索していきます。	物品の整理や置き場の工夫をさらに改良していきます。必要があれば、利用児童数のコントロールで人員的な圧迫を減らし、より有意義に空間を使った療育活動が出来るようにしていきます。身体を十分に動かすことが必要である活動を行う場合は公園や運動場など地域の資源を活用しながら行っていくことも検討していきます。
2	地域や近隣施設との関わりが少なく感じており、自社イベントや地域イベント含めて繋がり薄い印象があります。	地域のイベントなどへの参加は検討していましたが、日程などのタイミングや利用者様の状況を鑑みて先送りにしていたところがあります。自社イベントを考えていくなかで、近隣施設などと交流する機会を設けられるよう関係作りから進めていけるよう努めます。	周辺地域のイベント事に関しては、子どもたちが無理なく参加できるものを通じて企画していきます。近隣施設との関わりに関しては、災害時の動きの共有を行う機会を設けるなど連携できる体制を整えていけるように努めます。自社イベントにおいては、開催地域や参加人数などの参加条件をより応募しやすいように制限を緩和できればと考えています。
3	保護者様同士が上手く情報共有をしたり、保護者間で関われるような後押しが出来ていない部分があります。保護者間でのコミュニティが少ないと感じている反面、各保護者様の思いや考え方も違うためニーズに合わせた対応の難しさも感じています	交流の機会を求める声と、現状で満足との意見が分かれるため、ニーズに応じた柔軟な対応が求められています。保護者様ひとりひとりで違う考え方を持っており、保護者コミュニティ自体を望まれる方とそうでない方がいらっしゃるのも現状です。保護者様とお子様と一緒に参加するイベントなどを通じて関わる機会を設けてはいます。各保護者様のニーズに応えることができるように、希望者を募って参加するものを企画することも必要であると考えています	利用者様主体のイベントに、参観型で保護者様の関わりという目的を作ることを検討しています。まずは、そういったニーズがあるかなどアンケート聴取から進めていければと思います。利用者様に新しい経験を積んでいただく目的の中に、子も親も共に成長できるような目的をもった活動を今後は提供出来ればと思います。